２０２６年　夏号

SIEF LETTERS

公益財団法人
佐倉国際交流基金
〒285-0025
佐倉市鏑木町 198 番地 2
ＴＥＬ・ＦＡＸ　043-484-6326

～「困った」を「安心」に～　外国人住民の暮らしを支える取り組み

佐倉市では外国人住民が年々増加しており、地域で安心して暮らせる環境づくりがますます重要になっています。佐倉国際交流基金では、日本語教室の運営や生活相談員を配置し、行政手続きや学校・医療機関での通訳など、外国人住民の生活を支える相談に対応しています。

生活相談員に聞きました ―現場で感じたこと・実際の相談事例―

小林麻衣さん（英語）

英語の通訳ボランティアとして活動し、言葉だけでなく文化や考え方の違いを理解しながら伝えることの大切さを実感しました。相手の役に立てたことにやりがいを感じるとともに、自分自身も多くの学びを得る貴重な経験となりました。今後もこの経験を生かし、積極的に活動したいと思います。

保育園児のお母さんと保育園の先生との保護者面談を通訳としてお手伝いしています。お母さんの言葉は英語です。保育園からのお子さんの言葉、食事、トイレやお友達との社交性などの発達状況の報告を英語で説明し、お母さんからの保育園への質問や疑問をお聞きして先生にお伝えして、その回答をお母さんにお話しします。お子さんの発育状況と、お母さんが心から喜んでおられるのも感じられて、お手伝いして良かったと自分も嬉しくなります。

鷲見吉彦さん（英語・スペイン語）

長谷川奈美江さん（中国語）

初めて生活相談を受けたのは、中国から来られたＳさんからでした。「佐倉市に家を購入したので、電気とガスについて、また車を購入したので車庫証明の手続きについて教えてほしい」といった内容でした。日本人であれば、引っ越しの際はまず電気・ガス・水道の開通手続きは当たり前ですが、外国の方にとっては当たり前でないと改めて気付かされました。Ｓさんは日本に家を購入するぐらいなので、非常に日本に親近感を持ってくれていました。「日本と中国は同じ漢字を使っている」と嬉しそうに話していたのがとても印象的でした。言語も大事ですが、人は心で会話をしていると思った生活相談でした。

「こうほう佐倉」やさしい日本語版、ダリー語版を発行しています

相談対応だけでなく、外国人住民へ必要な行政情報を届けるため、やさしい日本語版、ダリー語版を発行にも取り組んでおります。母国語やわかりやすい日本語で情報を提供することで、市からのお知らせや制度を理解しやすくなり、安心して生活できる環境づくりにつながっています。

今後も外国人住民と地域社会をつなぐ架け橋として、多文化共生のまちづくりを進めてまいります。

佐倉市に住む
アフガニスタンの人々を知ろう
～隣人として共に暮らすために～

多文化共生講演会　報告

2026 年 2 月 2 日(月)、中央公民館において、多文化共生講演会を開催し、賛助会員やボランティア約 50 名の方に参加いただきました。講師には、千葉大学研究員でアフガニスタン出身のハシブラ・モハメド氏をお迎えしました。

近年、佐倉市ではアフガニスタン出身の住民が増えており、地域で共に暮らす「隣人」として相互理解を深めることを目的に、アフガニスタンの歴史や文化、宗教的背景に加え、女性の教育や人権を取り巻く現状、日本で共に暮らすための心構えなどについて、講師自身の経験を交えながらお話しいただきました。

参加者の声(アンケートより)

・「アフガニスタンの女性や少女に対する暴力や蔑視の厳しい現状が、想像以上の深刻さに衝撃を受けた。」
・「佐倉市や四街道市に暮らすアフガニスタン人の実情について、さらに知りたいと思った。」
・「タリバン政権とイスラム教を同一視すべきではないことが理解できた。」
・「佐倉で生活する、アフガニスタンの方々の思いや考えを、もっと知りたいと感じた。」
・「地域で共に暮らすために、自分にできることを考えたい。」

ハシブラ・モハメド氏からのメッセージ

「ネガティブな先入観や偏見をなくし、アフガニスタンの人々の文化的背景や精神的なトラウマへの理解を深めるとともに、人間の尊厳と互いの違いを尊重することが、共生への第一歩になると信じています。」

② どのような人たちなの？

・アフガニスタン国内では少数派のハザラ民族が主です。
・イスラム教のシーア派に属する人が多いです。
・母国ではスンニ派タリバンなどから長年にわたり差別を受けていたと言われています。

③ なぜ佐倉や四街道に多く暮らしているの？

・約 30 年ほど前から、この地域にアフガニスタン人のコミュニティーが形成されました。
・多くの方が自動車解体業(いわゆるヤード)に従事し、母国から親戚・家族を呼び寄せており、比較的若い世帯が多い。

③ わたしたちにできること

・相手の文化や背景を知る。
・やさしい日本語であいさつをしてみる。
・地域の活動や交流に、誘ってみる。
・困っているときに、そっと声をかけてみる。

ダリー語（ペルシャ語）で あいさつしてみよう！

ダリー語（ペルシャ語）は、
アフガニスタンの公用語の一つです。
佐倉市や四街道市で暮らすアフガニスタン出身者の多くが日常的に話しています。
まずは簡単なあいさつから始めてみませんか。

1 おはようございます/こんにちは ※「سلام」は時間帯を問わず使える最も一般的なあいさつです。	سلام	Salām (サラーム)
2 私は○○です。	اسم من ○○ است	Esm-e man ○○ ast (エスメ・マン ○○ アスト)
3 ありがとうございます。	متشکرم	Motashakkeram (モタシャッケラム)

佐倉市国際文化大学

2026 年度の講座が始まりました

佐倉市国際文化大学は、市民が国際的な視野を広げる場として、年間22回、各界の専門家による講義を行っています。今年度もより多くの方にご参加いただけるよう一般公開講座を2回開催します。

5月9日(土)の開講式では、千葉大学教授　小川玲子先生が、「身近に暮らす移民難民　―アフガニスタン在留外国人の実像」についてお話しくださいました。佐倉市にはアフガニスタン出身の方が多く暮らしており、地域の外国人を知るうえで貴重な内容でした。

第１回公開講座「外国人との共生の時代」を開催

6 月 13 日、志津コミュニティセンターで公開講座「外国人との共生の時代」を開催し、筑波大学教授 明石純一先生が講演されました。200 名を超える参加があり、日本の外国人政策や多文化共生の課題について、海外経験を交えてわかりやすく説明されました。地域ごとに外国人住民の状況や課題が異なるため、共生に「最適な一つの方法」はなく、地域の実情に応じた取り組みが重要と述べられました。

また、外国人を支援の対象とするだけでなく、地域の担い手として共に関わることが大切であり、文化の仲介者となる人材育成が鍵になると指摘されました。質疑では外国人コミュニティの形成について触れ、信頼関係があればコミュニティの存在自体は問題ではなく、交流を通じた相互理解が重要とされました。

10/10(土)　第2回公開講座
「不自由な国際通商・国際協調の時代　まず命脈を保て」
場所：志津コミュニティセンター
お知らせや講義録など、詳細はホームページをご覧ください。

イングリッシュサロン

～新しく金曜午前クラスを担当される Shayne 先生より、皆様へのメッセージをご紹介します～

My name is Shayne, and I am originally from the Philippines. I have been living in Japan and working as an English teacher, where I enjoy helping children and adults gain confidence in communicating in English. I believe that learning a language should be fun, practical, and meaningful. In my lessons, I aim to create a warm and supportive environment where students feel comfortable expressing themselves and trying new things. Seeing students grow and achieve their goals is the most rewarding part of my work. In addition to teaching, I am involved in organizing educational and cultural programs that connect people through language, travel, and international exchange. I enjoy meeting people from different backgrounds and learning about their experiences and cultures. Outside of work, I enjoy swimming, watching movies, traveling, and exploring new places. Some of my favorite destinations in Japan are Odaiba, Hakone, Lake Kawaguchi, and Mt. Fuji because of their beautiful scenery and relaxing atmosphere. I look forward to continuing to learn, grow, and build meaningful connections with the people around me. Thank you for taking the time to read my introduction, and I hope to meet many of you in the future.

私の名前はシェインで、フィリピン出身です。日本に住んで英語教師として働いており、子どもや大人が英語で自信を持って話せるようになるのを手助けしたいと思っています。言語を学ぶことは楽しく、実用的で、価値あるものであるべきだと考えています。私のレッスンでは、生徒が自分を表現したり、新しいことに挑戦しやすい環境を作ることを目指し、温かくサポートしています。生徒が成長して目標を達成するのを見ることが、私の仕事で最もやりがいを感じる部分です。教えることに加えて、言語、旅行、国際交流を通じて人々をつなぐ教育や文化プログラムの企画にも関わっています。さまざまな背景を持つ人々と出会い、その経験や文化について学ぶことが楽しいです。仕事以外では、泳ぐこと、映画を見ること、旅行すること、新しい場所を探索することが好きです。日本でお気に入りの場所は、お台場、箱根、河口湖、富士山などで、美しい景色とリラックスできる雰囲気が魅力です。これからも学び続け、成長し、周りの人たちと有意義なつながりを作っていくことを楽しみにしています。私の自己紹介を読んでくれた方々に感謝し、そしてこれから多くの人に会えることを願っています。

Information 英語で伝えよう！ 佐倉国際スピーチコンテスト 出場者募集

応募期間 8月17日(月)～9月4日(金) 定員 各部 先着20組
※定員に達し次第締め切り

今年で37年目の歴史あるスピーチコンテストです。皆様のご参加をお待ちしております。

開催日: 10月18日(日)
午前の部 幼児・小学生の発表
午後の部 中・高・大学生～シニアの発表
会場: ミレニアムセンター佐倉 ホール
コンテストの詳細・応募要項・応募申込みはホームページにて
主催:佐倉国際交流基金 共催:佐倉市 後援:佐倉市教育委員会

◇ご案内◇ 国立歴史民俗博物館

【企画展示】
「アイヌ民族と博覧会 ―150年の経験―」
2026年10月6日(火)～11月29日(日)
【第3・第4展示室特集展示】
「くらしを彩る 漆絵のうつわ」
2026年7月7日(火)～8月30日(日)

黄縮緬葉瑠璃筒白総鳥甲吹上台咲牡丹

【くらしの植物苑特別企画】
季節の伝統植物「伝統の朝顔」
2026年 8月5日(水)～8月30日(日)
季節の伝統植物「伝統の古典菊」
2026年11月3日(火・祝)～11月29日(日)

＊開館時間・休館日等、最新情報はホームページ等でご確認ください。 https://www.rekihaku.ac.jp

賛助会員募集

会費(年額)団体・法人会員 :1口10,000円
個 人 会 員:1口 2,000円
外国人・学生会員:1口 1,000円

特 典

◆SIEF 広報誌「Letters」の郵送
◆SIEF 主催イベント情報をメールでご連絡
◆佐倉ハーモニーホール主催のコンサートチケット割引(10%)
◆国立歴史民俗博物館入場料の割引(団体料金)

佐倉国際交流基金 事業報告

1 国際相互理解推進事業
- 公開講座
- 佐倉市国際文化大学
- 佐倉国際スピーチコンテスト
- イングリッシュサロン

2 国際交流活動支援事業
- 国際交流団体へ助成

3 外国人支援事業
- 外国人のための日本語講座
- 外国人のための生活相談

4 その他附帯事業
- 国際交流ボランティア
- 後援事業
- 国際交流活動等情報提供

当基金は運営ボランティアの皆様と賛助会員様のご理解とご協力の元に運営しております。
ご支援賜り厚くお礼申し上げます。
心より感謝致します。

◇2025年度決算のあらまし（佐倉市よりの受託事業を含む）

収入の部		**支出の部**	
基本財産運用収入	2,956,001	事業費	8,505,728
会費収入	535,000	管理費	1,596,750
事業収入	6,398,600	**経常費用計**	**10,102,478**
雑収入	43,311		
寄附金 他	67,672		
経常収益計	**10,000,584**	当期一般正味財産増減額	△101,894

公益財団法人 佐倉国際交流基金 事務局（SIEF）**関口・古澤・木山**
〒285-0025 佐倉市鏑木町198番地2 レインボープラザ佐倉 2F
電話・Fax 043-484-6326（月～金 9:00～17:00）HP: https://www.sief.jp Email: info@sief.jp